

あなたに伝えたい



上尾市議会議員（無所属）市政&議会 井上しげる レポート

発行 2016年7月 No 35 〒362-0031 上尾市東町2-4-11 TEL 773-3436
E-mail shigeru1952@hotmail.co.jp ホームページ <http://5-inoue.com/> FAX 773-3436



平成28年度一般会計補正予算案 3億6939万7千円の追加など22議案を可決
上平公園ふれあいの里用地購入費 2億4473万円を計上
文化センター棟屋増築、耐震補強修理工事請負契約 15億6915万円

6月定例市議会は、6月10日に開会し、市長から提案された平成28年度一般会計補正予算案など22議案を可決して、6月27日閉会されました。平成28年度一般会計補正予算案は3億6939万7千円の増額補正です。歳出は、上平公園ふれあいの里用地購入費2億7344万2千円などを計上しています。補正予算に計上された主な事業は、下表のとおりです。（詳しくは「あげお議会だより」8月号をご覧ください。）

平成28年度上尾市一般会計補正予算に計上された主な事業 (単位：千円)

事業名	補正額	事業内容
情報系ネットワーク設備運用事業	30,847	県のセキュリティクラウド構築に合わせた情報系ネットワーク機器の更新
戸籍・住民基本台帳事務事業	56,113	個人番号カードの交付見込みの増加に伴い関係経費を増額
アビィー元気体操パート2作成事業	2,000	子どもから高齢者まで幅広く参加できる体操を市民協働で制作
上平公園整備事業	244,732	上平公園ふれあいの里の一部の土地を取得
市民体育館管理運営事業	9,800	スポーツ振興くじ助成金で老朽化した移動式バスケットゴールを更新

(仮) 戸崎東部公園パークゴルフ場用地購入契約 6億円の議案の繼續審査を求める動議 (議案提出)
上尾政策フォーラムは、繼續審査動議に賛成 新政クラブ、公明党の反対で否決

市がパークゴルフ場36ホールの計画を進める（仮称）戸崎東部公園整備。6月議会に全地権者の同意を得られないまま用地の取得の議案が提案されました。公園整備計画は、農地整備組合、町づくり協議会、近隣区長で構成する検討委員会で、パークゴルフ9ホール、多目的広場、テニスコートなどを整備する最終案を決定し、検討委員会は解散。その一年後、市が突然説明会を開催し、パークゴルフ場36ホールにする変更案を提示し、計画を強引にすすめてきました。この市の対応に地権者から批判が起こり、全地権者から買収の合意が得られない事態になっています。動議は、地権者との合意を得るために市が誠意ある対応をはかることが必要として、今議会では議案を採決せずに繼續審査とすることを求めたもの。しかし、動議は上尾政策フォーラム、共産党が賛成しましたが、新政クラブ、公明党の反対で否決されました。地権者との合意なしの工事強行は許されません。



井上しげるの一般質問

井上しげるは、6月定例会で ①新図書館建設計画 ②東町小学校ヒップレハブ校舎解消について一般質問を行いました。(質問要旨は次のとおり)

新図書館建設について

東京オリンピック等の影響で高騰する建設費



新図書館建設について、井上しげるは新図書館の利用者数値目標2倍化とその根拠、家屋補償の方法とその根拠、土壤汚染の有無、運営方法などについての当局の見解を質しましたが、レポートでは新図書館の建設費の問題を取り上げます。

下表1は、市が建設費について、議会等で答弁した時系列の経過です。建設費は当初、20億円を想定。しかし、建設費を明らかにべきとの井上しげるの要求に27年5月26日に初めて32億円との額を明らかにしました。その後、35億円、38億円と膨れ上がっていきます。

表1 新図書館建設事業費の答弁の変遷

年月日	事業費の額	答弁会議	備考
H26.10.8	概ね20億円	第2回図書館協議会	東京北区図書館を例に40~45万円/m ²
H27.3	事業費の報告は難しい	3月議会一般質問	
H27.5.26	27億円~32億円	各会派への説明	27億/4000m ² 32億/5000m ²
H27.6.	27億円~32億円	6月議会一般質問	飯能市図書館を例に算出
H27.9.	32億円~35億円	9月議会一般質問	資料、家具、IC等で3億円増で35億円に
H28.3	32億円~35億円	3月議会一般質問	積算根拠示す。飯能市図書館 395000円/m ²
H28.4.20	37億円~38億円	文教経済常任委員会	基本設計による算出額

建設費の検討は、政策会議で上平移転を決定した後に

新図書館の規模と場所を上平公園西側に決定した政策会議はH26年1月22日に開かれている。事業を決定する会議で建設費が検討されていないことを指摘して、市長の見解を質しました。

市長 政策会議では特に(事業費の)話はしていない。その後、予算、概算の関係を検討させていただいた。と答弁し、具体的な建設費の検討は、政策会議の後であることを認めました。

なぜ建設工事の延期や漸減を検討しないのか
税金を無駄遣いしないことは行政の責任

表2 市が示した建設費32億円の根拠

飯能市立図書館の建設費39万5千円/m² ×
新図書館予定5000m²=19億7500万円(ベース)
建設予定年度まで6年間×年3% = 18%の建設費高騰 + 消費税10%を見込み = 32億円

表2は32億円の事業費を算出した市の根拠です。算出の基礎となったのは飯能市立図書館の建設費です。約20億円の建設費でした。それに6年間で18%の労務単価、建設資材費の上昇(オリンピック等の影響)を見込んでいます。上尾市の建設スケジュールは、オリンピックの建設スケジュールとピッタリと重なり、最も影響を受ける時期となっています。

下表3は、リオ・パラリンピック等の影響で建築費が高騰したなかで、公共施設建設工事を延期、凍結をした首都圏の自治体です。リオ・パラリンピックの競技施設建設にも影響が出ています。また、入札不調の事態も数多く生じています。税金を無駄にすることなく、最小限の税金で、最大の効果を上げるのが行政の原則です。最小限の税金の使い方かどうかを、税金を納める市民に説明する責任が市にはあると指摘して、市の見解を質しました。

凍結や延期は、現在考えていない

部長 東京リオ・パラリンピック等の要因だけでなく、東日本大震災や熊本地震の復興による労務単価の上昇など建設費の上昇の可能性も想定し検討しているが、東京リオ・パラリンピック後には下がるかと聞かれると、わからないことから凍結や延期については、現在考えていない。と答弁しました。

表3 建設費高騰で公共施設建設を延期・凍結する首都圏自治体例（井上作成、再掲）

自治体名	公共施設の種類	基本設計建設費	高騰した建設費	対応策
木更津市	市庁舎	110億円	150億円	凍結
豊島区	図書館・区民事務所	44億5千万円	64億円	凍結
練馬区	総合体育館	100億円	—	延期
中央区	生涯学習交流館	—	—	見送り
港区	公共公益施設	—	—	延期
小金井市	市庁舎	60億円	80億円	延期
鹿沼市	市庁舎	55億円	70億円	延期
秩父市	市庁舎	110億円	150億円	延期

なぜ建設を急ぐ 必要があるのか

事業をどの時期に行うことが市民にとって一番得なのかを検討することが大切で、財政的なシミュレーションをする必要があります

す。現在の図書館は耐震も大丈夫であり、建設を急ぐ必要があるとは思いません。。急ぐ理由は何なのかを質しました。

現図書館は誰もが利用しやすい施設とは言えない。新図書館は上尾市総合計画に位置づけられている

部長 書架、資料の収容能力が限界に達している。バリアフリー化が不十分なことから高齢者や障がい者など、誰もが利用しやすい施設とは言えない。また、上尾市図書館サービス計画及び上尾市総合計画に位置づけられ、22万都市にふさわしい事業をすすめている。と答弁しました。

東町小学校プリハブ校舎 暫定使用のはずが 15年3か月が経過 このままだと親子二代でプリハブ教室に 早急な対応策を！

東町小学校プリハブ校舎は、児童数増加に対応する当面の措置として平成13年に設置されました。その後、児童数は減っていません。今年は2年生が5クラスでプリハブ教室に入り切れない状況になっています。今後、プリハブ教室解消にむけて教育委員会の見解を質しました。

部長 平成13年3月に建設され、15年3か月が経過している。5月1日時点で児童数は774名で、今後少しづつ減少していく状況。しかし、4クラス分減少することは見込めない。今年は、2年1組から4組がプリハブ校舎に配置し、本校舎1階に1教室配置した。1クラスが離れているためインターを設置し、連絡調整している。上尾市全体で児童数が減るので、新たに校舎を立て直すという考え方は難しいと考えているとこれまでの答弁を繰り返しました。

しかし、東町小学校の児童数は減っていないのが現状です。「上尾市全体が減るから東町は我慢しろでは納得できない」と、改めてプリハブ教室解消のための可能な対応策を求めました。

市民からの2つの請願 新政ケニア、公明党の反対で否決 上尾政策フォーラムは賛成

■上尾市図書館本館の移転新築計画の実施凍結と再検討を求める請願

■保育士の待遇改善と保育士の確保の意見書を国に求める請願

図書館についての請願について文教経済常任委員会での井上しげるの賛成討論の要旨

この請願は、3つの理由あげている。一つは、市民への周知が不十分であり、疑問や不満が山積していること。市民の合意が得られているかと問うと、市は「すべての人の同意は得られない」という言い方をする。しかし、市が自身のホームページで掲載した議事録をみても納得されていない市民が多く、賛成という意見はあまり見られないのが率直な状況だ。

先ほど請願の署名の急速な広がりという話がされた。実際に新図書館を上平公園西側に建てるということを知らない市民が数多くいる。私も市民から「上平に図書館が移転するって本当なのか。そんな（上尾駅から遠い場所に移転）馬鹿げたことを何故市はやるのか」とのお叱りをうけた。まだ市民の中にこの問題が認識され、合意、醸成されていない。「市民とともに歩む図書館」を標榜しているのだから、今一度、市民の声に耳を傾けるという姿勢、対応が必要だと思う。

2点目は、上平移転は、高齢者等の交通弱者を図書館利用から遠ざけることになること。市の地域創生総合戦略でビジョンが語られている。その中では図書館の数値目標が出ている。図書貸出数がH31で5200冊ぐらいの増加しか見込んでいない。高齢化社会のなかで図書館はどうあるべきかを議論していない。高齢者には免許の返上など、車を使わないようにしていくことを求める一方で、交通の便の悪いところに図書館を移転する。例えば、都市マスター・プランでは、歩いて行ける区域の中で生活ができる都市づくりを目指していることからも逆行している。

また、市街地活性化が一つの大きな課題になっているなかで、公共施設が市街地から郊外に移転していく。そして、移転予定地は調整区域で、都市マスター・プランでは、公共施設を誘致するゾーンにはなっていない。上尾市全体の街づくりや今後のあり方からみて、図書館移転については整合性がとれていないことを指摘せざるを得ない。

そして3点目。38億円の建設費。労務単価や建設資材等の上昇（リソースや震災復興の影響）を年3%とみて、6年間で18%で35億円という建設費を出した。今、公共施設の建設は各自治体を悩ましている。東京リソースを抱える首都圏の自治体では、工事の凍結、あるいは延期という形でリソース後まで静観する、規模を縮小する事態が生じている。今、市民の税金を無駄に使う必要はないという判断だ。費用対効果や財政負担を極力少なくするということが、市民の税金を預かる行政の基本的な姿勢でなければならないと思う。

ましてや上尾市の図書館は耐震もクリアされている。また、現在の図書館は正常に機能しているという状況のもとで、急いで図書館を新築する必要性が市民に納得されるだろうか、大いに疑問のあるところだ。請願で指摘されている3点に、私の意見を表明し、賛成する討論とする。

井上しげるの一般質問の動画をご覧ください。上尾市議会のHPからアクセスできます。



みなさん こんにちワーン！

お元気ですか！？ 世の中 めまぐるしく
いろんなことが おきてるね またダッカでテロが
起きたり 政治でも・・ 色々ありすぎて 忘れて
しまうワーン！ リオのオリンピック 無事 終わる
といいね 日本選手もがんばって！ じゃあ～ね